

報道関係各位

～新企画が始動 茨城県が生み出した才能豊かな若者たちがステージに結集！～
新・未来サポートプロジェクト

『目指せ ミュージカル水戸黄門？』制作記者発表のご案内

茨城の魅力は、才能と意欲に溢れる若者たち！この度、いばらき大使の安達勇人を中心に、ダンスやマジック、芸能などの様々なジャンルで活躍する、才能豊かな茨城の若者が水戸芸術館 ACM 劇場にて一堂に会す新企画が始動します。「ミュージカル水戸黄門」の開催に向け、奮闘する若者たちの姿を描く舞台作品と、出演者たちのショーのどちらも楽しめる二部構成でお贈りするこの新企画の制作記者発表を下記の通り行います。

ご取材ご希望の際は、お電話またはファックスにて事前に下記宛先までご連絡をお願い致します。
何卒この機会に、貴媒体にてご取材、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース

新・未来サポートプロジェクト ADACHI HOUSE ラボ vol.1

『目指せ ミュージカル水戸黄門？』制作記者発表

日時 2021 年 5 月 14 日（金）14:00～15:00（13:30 受付）

会場 水戸芸術館 会議場

出席者 安達勇人、加藤良輔（俳優）、神田真紅（講師）、ICHI、TAKU（ダンサー）、
塚原ゆうき（マジシャン） ※出演者プロフィールは別紙参照

橋本昭博（構成・演出）、片野真吾（音楽監督）、小佐原孝幸（スーパーバイザー）

井上 桂（構成・脚本／水戸芸術館演劇部門 芸術監督）

内容 ・演劇部門芸術監督 井上 桂よりご挨拶、安達勇人さんご挨拶
・スタッフ・キャスト紹介、パフォーマンスなど
・質疑応答、写真撮影

水戸芸術館 広報係 担当：川崎宛

＜ご取材お申込み用紙＞

FAX：029-227-8110

TEL：029-227-8111（代表）

御社名 _____

御芳名 _____

人数 _____ 名

TEL _____

□個別インタビューご希望（出席者名： _____ ）



水戸芸術館 ACM 劇場に集結する茨城の才能たち！

公演概要

【出演】

安達勇人／歌手・俳優・声優
加藤良輔／歌手・俳優
神田真紅／講談師
ICHI／Locking ダンサー
TAKU／HipHop ダンサー
塚原ゆうき／マジシャン

構成・脚本：井上 桂

構成・演出：橋本昭博

音楽監督：片野真吾

スーパーバイザー：小佐原孝幸

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助成：文化庁文化芸術振興補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会



公演に関するお問合せ

◇水戸芸術館 ACM 劇場 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町 1-6-8

TEL:029-227-8123 FAX:029-227-8130

担当：高比良理恵 takahira@arttowermito.or.jp

取材に関するお問合せ

◇水戸芸術館広報係

TEL:029-227-8111

担当：川崎麻里子、鴨志田和子 kouhou@arttowermito.or.jp

水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース
新・未来サポートプロジェクト ADACHI HOUSE ラボ Vol.1

目指せ ミュージカル水戸黄門？

茨城の魅力は、才能と意欲に溢れる若者たち！
未来を拓く茨城の若き才能たち！
全国レベルで大活躍する、将来楽しみな若者が、水戸芸術館に一堂に会します
今回フォーカスが当たるのは、このジャンルの若者たち

歌手・俳優・声優

歌手・俳優

講師

ストリートダンサー

マジシャン

I C H I

安達勇人

加藤良輔

神田真紅

塚原ゆうき

T A K U

茨城県に所縁の深いこの若者たちは、県内外でそのジャンルの第一線で既に大活躍中です。しかもその成果や実績を、茨城に還元し、地元を元気にしようと日々エネルギッシュな活動を繰り広げています。本来ならこうしたジャンルの違う才能が、同じ場所で同じ企画で一緒になる機会はほとんどありません。そこで水戸芸術館は、演劇と言う枠を活かしつつ、しかもその枠をちょっと緩めて、才能あふれる若者たちが集える場所を考えました。それが当企画の最大の特徴の一つです。

作品は二部構成。第一部で「ミュージカル水戸黄門」を実現させようとする若者たちの苦難が描かれます。そのエピソードは、演ずるアーティストが現実社会で直面してきたものが反映されていますが、同時にアーティストその人のスキルが物語の中でも重要なファクターとして登場します。リアルとファンタジーが合体した劇作にもご期待下さい。第二部は、それぞれの魅力と才能を紹介するショーケース。存分にその分野の魅力を堪能していただきます。楽しくて、ちょっと欲張りで、しかも少しお得な企画です。

是非、この企画を通じて、彼らの魅力と出会い、そして彼らの活動を応援して下さい。

第一部 物語

今日は、地域起こしイベントのプレゼンの最終日。安達の満を持したプレゼンは、敢え無く砕け散ってしまった。傷心の安達の前に現れたのは、幼馴染の加藤。加藤は安達を元気づけようと駆け付け、その傷を癒そうとマルシェに誘う。そこで二人が出会ったのは、地元茨城で活躍する若い才能たち。その活動から、安達は自分の企画「ミュージカル・水戸黄門」がリアルに近づくヒントを見つける。一筋の光明を見つけた安達は、加藤と共に実現に向けた活動を始めるのだった。(物語は、第二回「冬の陣」へと続く)

第二部 ショーケース

この企画に集まった安達勇人、加藤良輔、神田真紅、ICHI、TAKU、塚原ゆうきの6人が、一人一人の才能を披露するショーケースで、それぞれの魅力も堪能していただきます。トークタイムもあり、更にその人物が深く理解されるでしょう。

公演が始まる前から楽しめる、愉快的参加型企画 本企画では、観てもらうだけでない楽しみも提供します。

あなたのアイデア大募集・・・あったら嬉しいスタンプ案&歌詞

水戸芸術館が作ったオリジナル・スタンプシールをプレゼント。普段のやり取りに便利な「言い訳スタンプシール・遅刻編①」や「啓蒙スタンプシール・まだまだコロナ気を付けよう」が申込者全員もらえます。スタンプシールをもらうためには、特設 HP 内にある「あったら嬉しいスタンプ案」にアイデアを応募してください。そのアイデアも後日、水戸芸術館スタッフが、知恵を絞って図案化し、スタンプ化に取り組みます。そして、今回新たに作るオリジナル劇中歌「その時が来た」。未来を目指す若者が立ち上がる決意をえがいた歌ですが、その三番の歌詞を募集します。あなたの熱い想いを、その調べにのせてみませんか。当選作は、「冬の陣」でご披露します。

いずれも詳細は後日、HP でお知らせします。

special edition

イバラキ・アーティスト・パーソナル・ヒストリーズ

特設 HP では、独自の世界観で活躍をしているこのアーティストたちの素顔に迫るパーソナル・ヒストリーと題し、その人生も詳しく紹介する予定です。今回は、各アーティストの「芸術監督の推薦理由」として、その一部を紹介します。

どのアーティストも、ある時期に思い切りの良い決断と、持ち前のタフネスさとスケールの大きい努力で一つ一つハードルをクリアし、具体的な目標にまい進しています。その姿は、後進の若者たちには素晴らしい道標となるでしょうし、また同世代以上の人々へは、これから生きていくヒントや勇気も与えてくれるほどです。そして、彼らを支え育てた「茨城の魅力や凄さ」も、同時に浮かび上がります。このアーティストたちに出会ったことで、私には未来に対する明るい確信すら産まれました。

是非皆さんにも、この若者たちと知り合ってほしいと切に願う毎日です。 (芸術監督・井上桂)



安達勇人 歌手・俳優・声優 桜川市出身

いばらき大使として茨城県内を縦横無尽に「茨城県を元気にする」活動を繰り返している安達は、子どもの頃から剣道に熱中し高校三年の時には団体戦で全国制覇を成し遂げたほどのタフガイです。剣道を通じて身に付けたタフネスぶりで、飛び込んだ芸能界でも大活躍、多くの作品でタイトルロールを勝ち得てきました。持ち前の明るさと、めげない実行力を引っ提げて、現在は笠間市を拠点に茨城を元気にする幅広い活動を繰り返しています。数年後には県内で数万人のライブを実現すべく文字通り走り回る日々ですが、出会う人すべてを笑顔にするユニークなその活動に、日々多くの仲間が増えています。

あだちゆうと…ミュージカル『忍たま乱太郎』『王室教師ハイネ』の出演のみならず、茨城県を盛り上げるため 2018 年から 1500 人規模の町おこし音楽フェスを開催するなど、いばらき大使としても精力的に活躍中。2020-21 年は単独での東名阪 Zepp LIVE ツアーを開催。カフェ、ファッションブランドなどのプロデュースもしている。



加藤良輔 歌手・俳優 水戸市出身

高校時代に観たボーカルユニットに魅せられ、思い切って高校生のうちから単身東京に移り住み、修業を重ねた覚悟の日々。父との約束の期限直前にミュージカル『テニスの王子様』で、見事に鮮烈なデビューを果たします。しかもこのミュージカルは、今や演劇界の一大潮流である「2.5 次元ミュージカル」を確立させたエポックメイキング的大ヒット作。そしてこの作品は、加藤良輔という才能も同時に送り出したのです。それを出発点に、加藤は歌手・俳優として、舞台、映像など活躍の場を大きく広げてきました。最近では、そんな自分の経験や知見を、夢を目指す地元の若い世代に託したいと心に決めています。

かとうりょうすけ…2004 年ミュージカル『テニスの王子様』でデビュー。以来ミュージカルからストレートプレイまで幅広く活躍するオールラウンドプレイヤー。RSK 名義でのアーティスト活動も行っている。水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース音楽劇『夜のピクニック』には初演に引き続き、昨年コロナ禍で上演された再演にも出演。



神田真紅 講師 水戸市三の丸出身

子どもの頃から生粋の歴女で大学も史学科に進んだ真紅は、ひょんなことから飛び込んだ講談の世界で、その人生の全ての経験が講談に繋がってしまった稀有な状態の真ただ中。芸の完成を 70 歳の自分に置いている真紅は、その大器晩成の道りを逆計算して、日々研鑽の毎日です。そんなスケールの大きい自己プロデュースは、古典芸能の世界ならではのかもしれませんが、水戸藩の題材が多くある講談は、水戸出身の真紅にはすでに大きなアドバンテージです。この比類ない環境の真紅が、今注目の講談界で、これからどう大きく育っていくのかそれも楽しみです。

かんだしんく…大学で歴史学を学び、編集者を経て神田 紅に入門。日本講談協会・落語芸術協会所属の二ツ目。古典『水戸黄門漫遊記』はもちろん、新作でも水戸の歴史にまつわる講談を多く手掛ける。NHK ラジオ第一「日曜バラエティー」レギュラー出演(2019 年 3 月まで)。この春、JR 東日本企画『歴史漫談 水戸漫遊』のナレーションを担当。新国立劇場演劇公演『斬られの仙太』関連企画で、ミニ講談も HP で披露した。

ICHI TAKU ストリートダンサー



1980年代、若者文化として始まった日本のストリートダンスは、2008年には中学校の必修科目となり、2024年のパリ・オリンピックの追加正式種目になるほど急速に広がりました。実は茨城県は、日本のストリートダンス黎明期だった1990年代から、全国に先駆けて世界レベルのストリートダンサーを輩出してきたストリートダンス先進地です。国内はもちろん海外でも大活躍した第一世代が作り上げた実績とカルチャーが、今も連綿と受け継がれ、第一世代同様国内外で活躍する後進のダンサーが数多く育っています。その新しい世代に属する茨城の素晴らしいストリートダンサーが、ICHIとTAKUです。

二人が活躍を始めた頃、SNSやYouTubeが発達し世界中のアーティストたちが直接繋がるようになりました。つまり、大都市経由でないと世界と交流できなかった時代が終わり、流行や文化的な面では世界の都市間格差がほぼ無くなったことを意味しています。それにいち早く反応し、世界を相手に活動を始めたのが、茨城のストリートダンサーたちなのです。

この二人の活躍の紹介もちろんですが、こうした茨城のストリートダンサーの紹介は、硬く言えば「地域に居ながら世界と交流し、地域の魅力を世界に伝えた素晴らしい事例」でもあり、「新しい形で茨城を世界に伝えている最先端の活動紹介」でもあります。また、その道のりと活躍を辿ることには、これからの茨城や日本の進み方に大きなヒントも与えてくれるはずです。

ICHI(いち)・・・2008年よりLAに渡り、The lockersのメンバー等、数々のOG達から確かな技術、ダンスの歴史を直接学ぶ。今や日本屈指のLOCKERで、国内外の様々なBATTLEで優勝経験を持つ茨城のPURE FUNK DANCER。エナジー溢れるスタイルが持ち味。香港、イギリスなど海外でもワークショップやジャッジを行っている。土浦市在住。

TAKU(たく)・・・キッズ時代よりコンテスト受賞歴は50以上。日本最高峰のダンスコンテスト「JAPAN DANCE DELIGHT」でも特別賞受賞。講師、ワークショップなど後進の指導も積極的に行っている。また自分がプレイヤーとして活躍するだけでなく、コンテストやバトルイベントなどのジャッジも務めている。かずみがうら市出身



塚原ゆうき マジシャン 古河市出身

小学生の時にマジックに魅せられて、それ以来マジックを色々な形で追求してきた若干22歳の塚原ゆうき。将来は茨城でイベント・プロデューサーになろうという夢に向かって邁進中です。この世界に飛び込んだ時から、芸のネタになるならどんな経験でもしてやろうという腹の座った行動力や、やるとなったら何でもとことんやり遂げてきた実行力が、この若者の持ち時間を濃厚なものとし、今やある種の風格すら与えています。その貫禄のエンターテインメントは既に一流で、見る人を必ず魅了してくれます。将来の大物間違いなしと確信させてくれる期待のマジシャンです。

つかはらゆうき・・・18歳でプロデビュー。テーブルマジックから大迫力のイリュージョンまで、多彩なネタを武器に年間400ステージ以上ものパフォーマンスを行ってきた若干22歳の実力派若手マジシャン。地元茨城県を盛り上げるため、県内各所のイベントや商業施設等に積極的に出演し、古河大道芸フェスティバルも主催している。

Staff

構成・脚本 井上 桂（水戸芸術館演劇部門芸術監督）



岩手県出身。

大学生時代より野田秀樹氏の夢の遊眠社、井上ひさし氏のこまつ座などから演劇に関わり、大学卒業後は演出部・舞台監督・舞台制作者として活動し、1996年の新国立劇場の開場とともに演劇制作部プロデューサーとして、渡辺浩子、栗山民也両芸術監督の下、企画制作を行う。2005年新国立劇場に国立としては初の俳優養成の研修所が開設されるとその運営を栗山氏と'10年まで担う。以降はフリーとして活動しつつ、'12年より日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（演劇部門）に就任し、文化事業に関わる様々な委員などを歴任。'17年4月、水戸芸術館演劇部門芸術監督に就任。

国内で初めてとなる宮崎駿オリジナル作品の舞台化（『最貧前線 宮崎駿の雑想ノートより』）などで、水戸芸術館を改めて全国に紹介するなどの活動を行っている。

構成・演出 橋本昭博



茨城県ひたちなか市出身。

桐朋学園芸術短期大学卒業。俳優・演出家・Moratorium Pants 主宰、小美玉市 文化創造コーディネーター。12歳で初舞台を踏み、2011年、演劇プロデュースユニット Moratorium Pants を旗揚げ。全作品のプロデュース・演出を手がける。詩人の谷川俊太郎氏の作品やオリジナル作品を上演。『新羅生門』『リボンの騎士』（'11年、横内謙介作・演出）、てがみ座『汽水域』（'14年、扇田拓也演出）など外部公演への出演も多数。他にも、'13年シンガポールとの国際共同制作舞台に出演、'14年上田慎一郎監督映画『彼女の告白ランキング』で水戸短編映像祭ベストアクター賞受賞、'15年ユース非核特使として世界一周、表現教育指導者として教育現場でも活動を展開するなど、多岐に渡って活動中。

'19年3月には、穂の国とよはし芸術劇場 PLAT で「2018年度 市民と創造する演劇」でシェイクスピアの『リア王』の演出を担当する。また'21年から小美玉市の文化創造コーディネーターに就任。

水戸芸術館 ACM 劇場には『十二夜』（'15年、森新太郎演出）、音楽劇『夜のピクニック』（'16年、深作健太演出、『海辺の鉄道の話』（'18年、詩森ろば作・演出）の出演に続き、今回が初の演出としての参加となる。

演劇プロデュースユニット モラトリアムパンツ

<https://moratoriumpants.wixsite.com/mp2016>

Description

未来サポートプロジェクト（2014 年～

2014 年に、前・芸術監督高橋知伽江の発案で始まった未来サポートプロジェクトは、茨城にゆかりのあるアーティストの発掘と舞台出演の機会創出を目的として、第 1 弾・演劇公演『息子たち』を皮切りにスタートしました。以来、演劇公演だけでなく、津軽三味線、尺八奏者とジャズ、落語家、ストリートダンス、ミュージカルなどの様々な企画で地元の才能を紹介し続けました。時にそのジャンルならではの最強メンバーを揃えたり、時にはジャンルを超えたメンバーを組み合わせた企画にしたり、題材そのものも誇りに思える地域の優れた取り組みを舞台作品化するなどで、その企画は全国にも伝えられ大きな成果を挙げてきました。

新・未来サポートプロジェクト（2021 年～

しかし、茨城にはもっと広いジャンルに、まだまだ紹介したい若い才人が多くいらっしゃいます。今回、新・未来サポートプロジェクトとして装いを新たに、「茨城の魅力は若者だ」という視点で、ジャンルの枠を飛び越えた新しい取組みで、若い才能にご登場いただきます。改めて茨城県を盛り上げる長期的企画としての、新・未来サポートプロジェクト、どうぞご注目下さい。

未来サポートプロジェクト ラインナップ

- | | | | | |
|--------|--------------------------------------|----------------------------------|---------------------------|-----------------|
| 第 1 弾 | 2014.1『息子たち』 | 作：S・メトカルフ | 翻訳：高橋知伽江 | 演出：磯村純 |
| 第 2 弾 | 2014.4『津軽三味線 はなわちえの世界』 | はなわちえ | 出演 | |
| 第 3 弾 | 2014.9『やさしい死神』 | 原作：大倉崇裕 | 脚色：横山一真 | 演出：遠島立夫 |
| 第 4 弾 | 2015.2『十二夜／わたくし、マルヴォーリオは—』 | 原作：W.シェイクスピア（十二夜） | 原作：T.クラウチ（わたくし、マルヴォーリオは—） | 翻訳：松岡和子 演出：森新太郎 |
| 第 5 弾 | 2015.6『赤シャツ』 | 作：マキノノゾミ | 演出：西川信廣 | |
| 第 6 弾 | 2015.9『WALK THIS WAY!』 | ストリートダンス×ACM THEATER | | |
| 第 7 弾 | 2016.7『むりやりドクター！？』 | 原作：モリエール | 翻案・演出：遠島立夫 | |
| 第 8 弾 | 2016.9 音楽劇『夜のピクニック』 | 原作：恩田陸「夜のピクニック」（新潮文庫刊） | 脚本：高橋知伽江 | 演出：深作健太 音楽：扇谷研人 |
| 第 9 弾 | 2017.3『和 JAZZ』 | | | |
| 第 10 弾 | 2017.9『アートタワー寄席』 | 出演：春風亭ぴっかり☆、桂宮治、神田真紅、柳家さん助、柳貴家小雪 | | |
| 第 11 弾 | 2018.3『ACM シアターコンサート 2018』 | | | |
| 第 12 弾 | 2018.8 NEW BRITISH MUSICAL『In Touch』 | Music&Lyrics&Book：D・アーバイン | 演出：菊地創 | |
| 第 13 弾 | 2018.9『海辺の鉄道の話』 | 作・演出：詩森ろば | | |

水戸芸術館 ACM 劇場プロデュース
新・未来サポートプロジェクト ADACHI HOUSE ラボ Vol.1
「目指せ ミュージカル水戸黄門？」

公演概要

日程：2021年7月31日（土）14：00／18：30

8月1日（日）14：00

*開場は開演の30分前を予定

会場：水戸芸術館 ACM 劇場

出演：安達勇人、加藤良輔、神田真紅、ICHI、TAKU、塚原ゆうき

スタッフ：

構成・脚本 井上 桂（水戸芸術館演劇部門芸術監督）

構成・演出 橋本昭博（俳優・演出家・Moratorium Pants 主宰・小美玉市 文化創造コーディネーター
ひたちなか市出身）

アクション 亀山ゆうみ（TEAM HANDY）

舞台技術 水戸芸術館舞台技術係

スーパーバイザー 小佐原孝幸（常磐大学助教）

〔チケット料金〕（全席指定・税込）

S席 5000円 A席 4000円

一般発売日：2021年6月5日（土）9：30～

先行予約（電話・ウェブ予約のみ）

財団運営維持会員：6月1日（火）9：30～

水戸芸術館メンバーズ：6月2日（水）9：30～

〔チケット取扱い〕

水戸芸術館（休館日を除く 9：30～18：00）

エントランスホール内チケットカウンター

◎チケット予約センター TEL 029-225-3555

◎ウェブ予約 <https://www.arttowermito.or.jp/ticket/>

*開場は開演の30分前予定

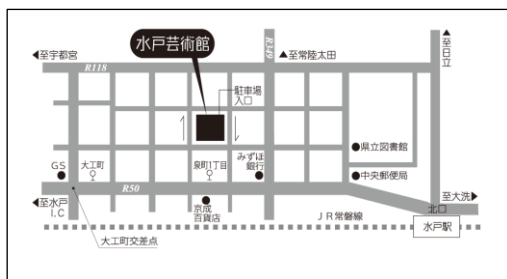
*未就学児童の入場はご遠慮ください。

*車椅子でのご来場は、チケット予約時にお知らせください。

*開演時間を過ぎてからのご入場は、指定の座席にご案内できない場合がございます。

*会員先行予約によって、一般発売日の前に完売になる場合がございます。

*感染症予防対策のため、座席数を制限して販売いたします。



〔アクセス〕

●JR 常磐線水戸駅北口バスターミナル4-7番のりばから「泉町一丁目」下車、徒歩2分。

水戸芸術館 ACM 劇場

TEL 029-227-8123（休館日を除く 10時～18時）

〒310-0063 水戸市五軒町 1-6-8 <https://www.arttowermito.or.jp/>

「目指せ ミュージカル水戸黄門？」公式 Twitter <https://twitter.com/nXUd6HtkYKsZiyo>

主催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助成：文化庁文化芸術振興補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

独立行政法人日本芸術文化振興会

